

1月臨時会決算等審査特別委員会 1月24日～26日

決算等審査特別委員会（議長を除く36人の議員で構成、委員長安部重幸議員、副委員長中村桂三議員）は、予算1件、決算16件の17議案について付託を受けて3日間の審議を行いました。

今臨時会では合併前の旧遠野市と旧宮守村の半年分の決算審議となり、除排雪費や旧宮守村の地域的共同事業に関わる交付金等について活発な質疑が交わされました。その結果、全17議案が原案のとおり可決されました。



今冬は例年になく大雪となり除雪作業が続いた

旧市村の決算認定される

除雪費について

【質問】 例年に比べて雪の量はどうか。また、除雪・排雪の際、場所によってかなり状態に差があるが、基準等は設けているのか。一人暮らしの高齢者世帯の前に除雪した雪が積まれているとか、車があまり通らない道路が先に除雪されている等の苦情があるが。

【答弁】 量について市内のはっきりとしたデータは現時点ではないが、荷沢峠で約1.7倍程度の降雪量となっている。基準等は特に設けていないが、除雪する際のコースは指示している。除雪した時期によって路面状態に差があり、市として全て一律に対応するのは難しい。高齢者世帯の前の除雪については個人委託をするなど出来る限りの努力はしているが、地域の協力も必要になってくるので早急に仕組みづくり等の対策を検討したい。

カメムシ防除に本腰で取り組みを

【質問】 平成17年産米の一等米比率は95%だがというがマイナス要因はカメムシ被害が大きいと考える。

病害虫防除推進事業で反省点は。

【答弁】 いもち病の面では良かったが、カメムシ防除については徹底して取り組む必要があると反省する。

【質問】 綾織地区の農業集落排水処理場の照明により、カメムシの影響を受けたと話しているが、影響の出る時期は消灯するなどの対応が必要である。市内にあるこの種の施設をよく調査しての対策が求められているがどうか。

【答弁】 防除に当たっては個人または集落での取り組みとなるが、今後は施設関係の点検を含めて、遠野地方病害虫防除推進協議会を中心に働きかけて行く。なお一等米比率は旧遠野市が82.6%、旧宮守村が92.9%でしたので訂正する。

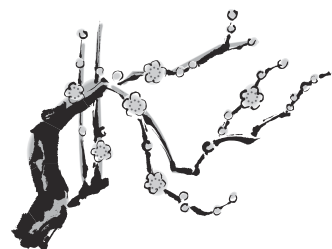
託老所開設事業の成果は

【質問】 宮守町の託老所開設事業の成果は。

【答弁】 高齢者も楽しみにしているし、介護予防の観点からも大変良い事業であると認識している。

【質問】 平成18年度以後も同じような形態で実施する予定か。

【答弁】 旧遠野市と旧宮守村では名称や運営形態が多少違うが統合できるところは統合しながら、17年度と同じようなスタイルで実施したいと考えている。



ワサビの生産振興は

【質問】 ワサビの苗づくりはバイオテクノロジーの技術の確立がある。ワサビの生産販売拡大をするために産業振興に結びつける具体策が色々あると思うが、長年にわたり培われた技術と創意工夫と生産出荷量の増大を図り地域特産物として地産地消を進めることや、ホテル・民宿・飲食等組合と連携し販売活動し日本一の遠野宮守ワサビの販売をすべきではないか。

【答弁】 平成16年産ワサビの売上は5,600万円だが、今後の生産目標は1億円まで計画している。ワサビ栽培農家を育成し、更に販売体制の確立と地産地消にも積極的に取り組む。加工品の新しい商品開発と県外販路の拡大を図り、バイオテクノロジーの技術を活用した苗を生産し品質日本一のワサビ生産を目指す。